



りのさまざまな分野における各種施策及び事業の推進に努めてまいりました。

この総合計画は「10力年の基本構想」「前期・中期・後期の基本計画」と「実施計画」で構成され、令和8年度末をもって計画期間が終了いたします。

そのため、本年から2年間かけて「名寄市総合計画（第三次）」（計画期間：令和9年度～16年度）を策定することとしており、多くの市民の皆さまの参画により計画づくりを進めてまいりたいと考えております。

つきましては、総合計画策定の参考とするため、各種施策の満足度や幸福度、まちづくりに関する皆さまの今後の意向などについて、アンケート調査によりご意見を伺いたいと考えておりますので、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

今後も市民の皆さまとの協働のもと、名寄市総合計画（第三次）の策定に取り組んでまいります。

令和7年11月  
名寄市長 加藤 剛士

日頃から、市政の推進にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

本市では、平成29年に多くの市民の皆様のご意見を反映した、最上位計画となる「名寄市総合計画（第二次）」（計画期間：平成29年度～令和8年度）を策定し、総合計画に基づいて、まちづく

## 名寄市の概況

### 人口の推移

旧風連町を含む本市の総人口は、平成2年には3万7194人でしたが、その後減少が続いており、平成27年に3万人を下回り、令和2年は2万7282人となっています。国が令和5年に示した将来人口推計結果によると、本市は今後も人口減少が続く、令和32年には総人口が1万7272人になると予測しています。

少子高齢化の進展に伴い、増加傾向で推移していた高齢者の人口は令和2年には減少に転じていますが、高齢化率（総人口に占める高齢者人口の割合）は上昇を続けており、令和2年には32.2%となり、その後令和39年には38.2%に達すると見込まれています。

### 財政の状況

本市普通会計の歳出決算額を目的別でみると、計画期間前の平成28年度と比べて令和6年度は教育費が58億5千万円から37億円に減少している一方、民生費が44億9千万円から59億9千万円に、土木費は17億3千万円から29億3千万円に増加しています。高齢化の進展により今後も民生費は増加することが予測されることや、老朽化が進んでいる公共施設は順次修繕や改修を進めなければならず、施設によっては複合化を含めた施設更新の対応をしていく必要があります。

一方、本市の歳入は人口減少に伴って減少していくことが見込まれ、今後も厳しい財政状況が続くと考えられます。

